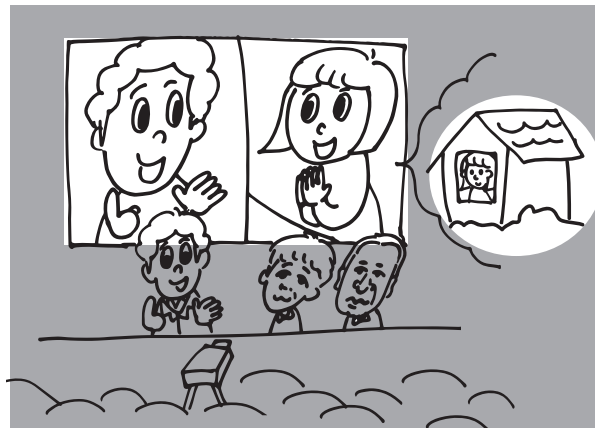




巻頭言 市のデジタルインフラ整備の必要性

今回のコロナ禍で、対面を通して行われる様々な会議や説明会、イベントが中止になりました。一方で、新しい試みとしてオンラインを使った対話の場づくりが行われるようになりました。県主催の松糸道路建設の説明会では2会場をオンラインでつなぎ、密を防ぎながらも人数を制限せずに市民が参加できました。また私自身も市民との対話の場である「市民まちづくりトーク」をオンラインで開催しました。これはコロナ禍において見出されたオンラインの可能性です。with コロナの時代（コロナとどう折り合いをつけて生きていくか）に、対話の機会を確保するオンライン整備は、市行政にとって必要なインフラ（社会基盤）と言えます。そんな中で、**私の最近の関心テーマは「デジタルを活用し、新たな価値を創造する」**です。松本市の臥雲市長が、先日9月1日に「多事争論会」と銘打って、会場に市民を集めるだけでなく、ズーム（動画アプリ）でのオンライン参加も可能にし、実会場とオンラインとを組合わせた対話の場をつくりました。私もオンライン参加したのですが、驚いたのは市民が自分の意見を言う際に、ズームの画面に市長とその発言者が同じコマの大きさで映し出されるのです。

その情景は最早「お上に物申す民」ではなく、市長と市民の「対等・同格」な意見交換の場になったと感じました。この会に参加した方たちは、市政に自分の意見を堂々と届けられる手応えを感じたことでしょう。



オンライン参加により、会社で働いている現役パパが会社のパソコンから発言できる。子育てママが家で家事をしながら市長に子育ての要望を伝えられる。市の中心部ではない、過疎化した辺境部に暮らす人たちも、地域の窮状を家から伝えられる。こうやって、市民の市政参加が促されていくのです。臥雲市長はそれを狙ってのオンラインも組み込んだ会の実施だったわけですが、「デジタルを活用し、新たな価値を創造する」という道筋が見えているのでしょう。デジタル一辺倒の社会を目指そうとは思いませんが、デジタルを駆使して社会をより良くするという観点は、これからの行政運営、市政運営に欠



みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近になるために、虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋となるよう活動報告をお届けします。望三郎の活動はブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

かせません。とりわけ、人口減による縮小社会において、地域交通、学校教育の改革、医療の充実、災害対応などあらゆる分野の課題を、デジタル技術を人の知恵で活かして、解決していかなければなりません。そのためにデジタルの社会基盤を整備する必要があります。そして一方で対面の良さや体験でこそ得られるものも、より明らかになっていくことでしょう。デジタルと対面・体験を組み合わせた社会の構築を目指すべきだと考えています。

デジタル化による電磁波・5Gなどによる健康被害の懸念もあり、その点への留意も必要です。

安曇野まちづくりトークのご案内

議会報告を兼ねて安曇野のまちづくりを市民と議員が車座で話し合う「安曇野まちづくりトーク」を開催します。また今回も別日程でオンライン開催しますのでご参加ください。

・会場開催

♪日時：10月25日（日）pm2:00～4:00

♪場所：豊科交流学習センターきぼう2階

・オンライン開催

動画アプリ Zoom を使います。各ご自宅からパソコンやスマホでご参加ください。我々議員も各自宅から参加します。事前にやり方をお伝えしますので次のアドレスに27日までに申込ください。→boetu@d6.dion.ne.jp

♪日時：10月28日（水）pm7:00～9:00

サポーターからの応援メッセージその26



鈴木達也さん（三郷／農家・バジルクラブ）

望三郎君が安曇野に根を下ろして農業と宿を始めたところからのつき合いです。当時からの、夢を語る場所を作りたいという思いは、今の議員活動にも注がれていますね。持ち前のボーダーレスな発言やゴミ問題に関わるためか、1期目にはいくつかの保守側市民からの洗礼があったと聞きます。私も地球宿の経営と議員活動の両立を心配していました。しかし2期目になると、開け広げで透明性の高い粘り強い活動が、少しずつ頑固な人たちの垣根を下げてきている気がします。望三郎君の姿勢や発言にも余裕と自信が感じられるようになりました。

三郷小学校5年生の合鴨稲作のサポートにも地球宿スタッフと一緒に参加してもらっています。里山教育の持続に、市政の取り組みの厚みを一層期待しています。それから望三郎広報委員長のおかげか、一端の有機農家である私にも安曇野市政に少し関心を持てるようになりました。私はどちらかと言えば不言実行型の職人ですが、有言拡散型の望三郎君と同じく、お金に頼らない心身健康で豊かに暮らせる安曇野市が理想です。来期も頼みます。

《質問1》安曇野市にDX戦略は必要か？

【解説】

人口減少社会の中で、次世代地域交通の構築、教育における学びの改革、地域医療の充実、災害対応など、あらゆる分野の課題解決が行政に求められています。これら課題は既存の行政能力（人材、設備、財源など）や従来の取り組みの延長では解決できないものも多く、進化するデジタル技術とデータを駆使し、新たな価値やサービスを創出し、社会課題を解決していくデジタルトランスフォーメーション（DX＝デジタル変革）が必要です。安曇野市でもDXの取り組みを提案しました。

望市議 DX（デジタル変革）について市長の認識は。

市長 リモートワーク、電子決済、ウェブ会議など、コロナ感染を抑制するためのデジタル化を加速させる必要がある。

望市議 市のICTの取組は。

政策部長 行政手続等のオンライン化の促進を重点施策に掲げ、ながの電子申請・届出システムの充実に取り組んでいる。災害情報共有システムの導入を研究している。

望市議 市のDX戦略の必要性は。

市長 市民ニーズや生活スタイルの変化に将来的に対応するため、今後の市の戦略として検討するのは重要。

政策部長 市の情報化基本方針や長野県DX戦略とも整合を図る。全部局横断的な取組によって施策を再検討する必要がある。来年度から策定に取り組む後期基本計画で方向性を検討する。

望市議 デジタルを駆使して本市をよりよい社会へ変えようという高い視座を持って考え

ている部署は。

副市長 担当部署はまだ決まってない。市の取組方針など方向性を見定め、体制を積極的に詰めていきたい。

望市議 外部人材も入れた専門チームの設置と人材配置は。

市長 横断的に施策を検討する組織を構築していきたい。人員配置等についても研究をしていく必要がある。

望市議 安曇野ならではのDXとは。

市長 デジタル化は市民と行政をつなぐもの。つながりを大切にする安曇野らしさを失わないよう、デジタル変革を進めていく。

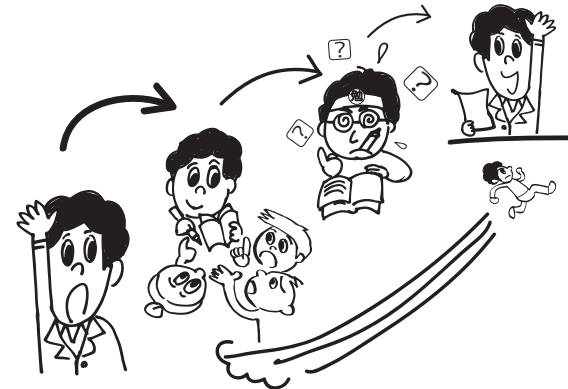
【まとめ】

ITはこれから社会のあらゆるところに益々浸透していきます。その時、手段であるはずのITに翻弄されるのか、それとも自分たちの生活をより豊かに暮らしやすくするために技術を使いこなすのか。行政もこれまでの仕事を見直し、オンライン整備は行政インフラとして捉え、デジタル技術を駆使することで、市民に対してどのような新しい価値を創造、提供していけるのか、デジタル変革をした次代の行政の姿を描いて、デジタル化への対応をしていかなければなりません。

議員の仕事について
～定例会が終わってからが勝負！～

先日市内の小中学校を訪ねました。6月定例会の一般質問でGIGAスクール（児童生徒にパソコンを1台ずつ整備し、教育のデジタル化を進める）を、市でどのように取り組むのか質問した際に、教育長は「各学校に情報担当の先生がいる。」「安曇野市教育会で各学校の情報教育に関する専門性の高い教員で構成する情報委員会が組織され、市内全校の情報教育のあり方について調査、研究が行われている。」「市教委も連携を図るとともに、

各校のICT推進を担う方たちと情報を共有、支援し、今後どんな研修が求められるのか一緒に検討したい。」と答弁されました。では、各学校の情報担当の先生や教育会の情報委員会で、実際にどんな検討がされているのかを確認したいと思い、話を聴きに訪問したのです。



私は議会で毎回行方一般質問を、打ち上げ花火のようにパッと開いてそれで終わる、その時だけの行政とのやり取りにしたいと思っています。一回の質問で行政からいい答弁をもらえて施策につながることは稀です。質問後もその課題を調べ続け、何度も行政に取組を確認する中で、時代の変化や市民のニーズ、行政の意向により少しずつ変わっていくのです。一般質問の行政答弁は、私にとっては次なる取組の手がかりです。今回も教育長の答弁を手がかりにして、面談をお願いし2つの学校を訪れたわけです。会って話をすれば、新たな情報や取組の現状が分かります。情報担当の若い先生は課題と要望をまとめてくれており、「(GIGAスクールについて)自分たち現場の思いや課題、要望をしっかりと伝える機会があって本当にありがたいです。」と言われました。こういった現場の先生の「生きた情報」をもとに考えを練り直し、行政に提案をしていくのです。議会の定例会は年に4回。定例会が終わった翌日がスタート、勝負。そんな気持ちで議会活動に取り組んでいます。

